



第37回全国中学生人権作文コンテストで 法務大臣政務官賞を受賞

関根 悠里さん(桜町・13歳)

法務省と全国人権擁護委員連合会が、中学生に豊かな人権感覚を身につけてもらうことなどを目的に実施している、全国中学生人権作文コンテスト。今年行われた第37回のコンテストで、96万390人の応募の中から法務大臣政務官賞を受賞したのが、関根悠里さんです。



関根さんの作文のタイトルは、「髪がつなぐ思いやり」。自身がヘアドネーション(※)に協力したときの体験を書きました。小学3年生のとき、母の知人の髪も眉もない子の写真を見た関根さんは、「何か変だな」と感じました。後にそれが病気による脱毛だということを知り、失礼な感情を抱いてしまったことを反省したそうです。それから、美容師の祖母にヘアドネーションという取り組みがあることを教わり、寄付をするために3年生の終わりがら髪を伸ばし始めました。「最初は、伸ばすだけだから簡単なことだ」と思っていたものの、次第に長く

なってくると、洗って乾かすのに時間がかかり、夏場は暑くて大変でした。もうやめよう」と挫折しそうになりましたが、母に励まされたり、自分よりもずっと辛い思いをして治療をしている写真の子のことを思い出したりして頑張りました」と振り返ります。

そして約3年間伸ばした髪を6年生の秋に40センチほど切り寄付をしました。人生初のベリーショートヘアを新鮮に感じた一方、思った以上に短くなったため、恥ずかしくなったそうです。しかし、髪を伸ばしていた理由を知ったクラスメイトや先生に「とても似合っているよ」「髪を寄付したなんてすごいね」などと声を掛けられ、うれしくなりました。

関根さんは、寄付するためにまた髪を伸ばしています。「誰かのために自分ができることをするのは特別なことじゃなく、当然のことだと思えます。ヘアドネーションのことを皆さんに知ってもらいたいです。そして他人を思いやる心を持ち、差別や偏見のない平和な世界にしたいですね」と伸びかけた髪に手をやりながら語る関根さん。今回の受賞がとても大きな自信となり、これからもボランティア活動などに進んで参加し、思いやりのあるすてきな大人へと成長していくことでしょう。

※ヘアドネーションとは、頭皮・頭髪に関わる何らかの病気や不慮の事故が原因で髪を失いウィッグ(かつら)を必要としている人に、医療用ウィッグを作り無償で提供する活動。

私の作品

◎皆さんの作品を募集しています。
◎俳句は毎月5日までに、はがき・封書で
広報広聴課へご応募ください。

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|-----------|-----------------|-----------|---------------|-----------|-----------------|----------|---------------|------------|----------------|-----------|----------------|-----------|-----------------|----------|--------------|-----------|-----------------|-----------|---------------|------------|
| 俳句 | 南河原 今村 文女 | 色褪せし作務衣勤労感謝の日 | 荒木 藤田 栄之 | 利根の風ことさら寒し渡し守 | 西新町 澤田 信一 | ちよこちよこと動く声消ゆ四日朝 | 持田 島田 悦子 | 数へ日や嫁ぐ娘のせはしなく | 南河原 中原 定子 | 陽だまりに凜と一輪冬薔薇 | 藤原町 斎藤雄次郎 | 水掬ふごとく手に受く熟柿かな | 持田 丸山 麟一 | 山黙し動くともなし鱗雲 | 須加 原 智郁子 | 金婚の気楽な旅や冬もみじ | 西新町 青木 泰山 | 秋の旅手招きしたる陶狸 | 矢場 高田みつ子 | 運慶展余韻の道の散紅葉 | |
| | 持田 二瓶 弘子 | 底冷やつぎつきと来る喪のはがき | 清水町 柳沢 紀子 | 弟の琴の音に酔ふ新年会 | 須加 天沼 広吉 | 透析の気休めもなき冬一日 | 堀 定春 | 餌求め冬田うろつく鳥一羽 | 富士見町 鈴木スイ子 | 小春日や除幕の句碑の息づきぬ | 持田 小倉 繁三 | 秋高しゴール近くに太鼓音 | 清水町 斉藤 文子 | 行く秋を惜しむごとくに森の樹々 | 荒木 高澤よね子 | 眠れば友の面影秋逝けり | 持田 関口 操 | 枯すすき風のさそいにぎこちなし | 富士見町 森 節子 | ふと出会ふ妣の知人や冬の駅 | (三沢 一水 監修) |

はじめまして



★★★ 平成29年 1月生まれのおともだち ★★★

平成29年3月生まれのお子さんを募集します

○1月4日(休)～31日(水)に電話またはEメールで広報広聴課広報広聴担当(内線318)
※応募要領は市ホームページをご覧ください。
○応募者多数の場合は、2月1日(休)午前11時から市役所203会議室で公開抽選を行います。



岡村 凌玖ちゃん(荒木)
平成29年1月14日生まれ
父・充晃さん 母・里美さん
「すくすく育て 我が家の天使♡」



鈴木 結斗ちゃん(富士見町)
平成29年1月17日生まれ
父・巧さん 母・章絵さん
「強くたくましく 元気に大きくなってね」



町田 結奈ちゃん(門井町)
平成29年1月16日生まれ
父・一真さん 母・純子さん
「愛する我が家の癒し系!!」



尾崎 太鳳ちゃん(持田)
平成29年1月9日生まれ
父・任穂さん 母・亜季さん
「我が家のアイドル!! 成長が楽しみです!」



田島 茉紘ちゃん(野)
平成29年1月16日生まれ
父・鉄也さん 母・和香子さん
「笑顔いっぱいありがとう」



原田 妃菜ちゃん(持田)
平成29年1月29日生まれ
父・匠さん 母・礼奈さん
「パパとママの宝物♡」

ぎょうだの会社を クローズアップ!!

株式会社福樹園

思いやりの心と確かな技術で癒やしの空間を提案



会社プロフィール

代表取締役社長 諏訪 智也

【事業内容】庭園設計、施工、管理、造園
資材販売
【所在地】行田市和田245

株式会社福樹園は、伝統的な和風庭園から現代的な洋風ガーデンまで幅広いジャンルの庭設計や施工、管理を行う造園会社です。代表取締役社長の諏訪智也さんが20年間他社で修業を積んだ後、平成27年1月に独立しました。「私たちが目指している庭とは、使いやしく、癒される空間。客との対話を通じて庭への思いを捉え、一緒に形にしていきます」と諏訪さんは話します。使用する樹木や石は施工する庭と似た環境で育まれたものを使い調和を図っています。また、高齢世帯にはバリアフリーな構造、子育て世帯には手間がかからないよう除草対策を行うなど家族構成やライフスタイルに合わせた庭を提案。一級造園技能士などの資格を持った職人が思いやりの心と確かな技術で造り上げる庭は好評を得ており、最近では個人宅だけでなく、会社や病院などからの依頼も増えているそうです。さらに同社では女性庭師も活躍中で、新規客が利用しやすい環境づくり、女性の視点を生かした庭デザイン

などを行い、造園業に対するイメージをより身近なものに変えてきています。そして、若い世代に縁に親しんでもらおうと新たに始めたのが「子育て応援ファミリープラン」。中学3年生までの子どもや妊婦がいる家庭を対象に「お庭で遊べる芝張りプラン」など3つのプランを用意し、庭師の選んだ樹木をプレゼントしています。五感で四季の移ろいを感じられ、手入れしやすい庭づくりを心掛けています。今後について諏訪さんは「日本の庭文化を多くの人に知ってもらい、残していきたいです。日々表情を変える緑を楽しんだり、休みの日には庭でランチをしたりと生活空間のひとつとして親しみを持ってもらいたい」と力強く話してくれました。公民館で苔玉づくりや門松づくりの出前講座を開くなど、和庭文化の伝承にも積極的な同社。これからも伝統を守りながら、時代の流行を取り入れた魅力的な庭を作り上げていきます。

※このコーナーで紹介する会社を募集しています。
特色ある業務を行っている会社の情報を広報広聴課広報広聴担当(内線318)までお寄せください。